

Sci

HOKKAIDO UNIVERSITY
SCHOOL OF SCIENCE

理学の知と技

北海道大学
理 学 部
理学研究院

2018 Vol. 03



CUDマークはNPO法人
北海道カラーユニバーサル
デザイン機構により、認
証された印刷物、製品等
に表示できるマークです

特集

キャンパスを飛び出して！ ～キャンパス外でのアクティビティ

注 目
研 究

化学科 錯体化学研究室
秩序を保ちながら弱い刺激で変化する結晶
「ソフトクリスタル」を求めて

先輩に
聞く！

地球惑星科学科 2016年卒
自然史科学専攻 修士課程 2018年修了
日下 葵さん

歴 史

そうだったのか
理学部誕生 (前編)

産業界
からの
期 待

内閣府公益認定等委員会事務局非常勤
(株)MCインターナショナル 代表取締役
村上 幸夫さん



学びの場は教室だけ?

Contents

学外施設・活動拠点紹介

学びの場は教室だけ?

学外施設・活動拠点紹介 02-03

特集

キャンパスを飛び出して!
 ~キャンパス外での
 アクティビティ

化学科 04

実験と研究の日々に向けて
はじめての一步

生物科学科(生物学) 05

体験することで気づき、身につく

生物科学科

(高分子機能学) 06
研究を深め 自分が変わる

地球惑星科学科 07

地球の活動を詳細に知る

数学科 08

卒業までのイメージを掴んで
スタートダッシュ!

物理学科 09

物性物理学の最先端研究

注目研究

秩序を保ちながら
 弱い刺激で変化する結晶
 「ソフトクリスタル」を
 求めて 10

先輩に聞く!

地球惑星科学科 2016年卒
 自然科学専攻 修士課程 2018年修了
 日下 葵さん 11

歴史

そうだったのか
 理学部誕生(前編) 12

産業界からの期待

原理、原則のすすめ
 内閣府公益認定等委員会事務局 非常勤
 ㈱MCインターナショナル 代表取締役
 村上 幸夫さん 13

学生の活躍

広報委員長室

14-15

北大理学部の1年

キャリアカフェレポート

16

学外施設・活動拠点紹介

Hokkaido



Wakayama

和歌山研究林

北海道大学は広大な札幌キャンパス、海が目前にある函館キャンパスの他に、学外に教育研究施設があります。道内外にある各施設では、そこに所属する先生たちによる研究活動が日々行われています。どの施設も自然に恵まれた環境を大いに生かした立地で、そこでしかできない研究をしています。

これらの学外施設は、北大の先生や学生が申請をすると使うことができるので、学部・学科の実習や研修を行う教育活動の拠点としても利用されています。

また、活動場所は学外施設だけではなくではありません。北海道内各地や道外、海外のフィールドで活動することもあります。川や海、森、火山、氷河など、ありとあらゆるところで調査や研究活動をしています。

共同研究先の大学や研究機関、企業などへ行って実験や研究をしたり、海外の大学や研究機関へ研究留学をすることもあります。

これらは所属している研究室や自分の研究テーマに沿って行われる活動であることが多く、研究をより深めるために行います。

大学キャンパス外での活動は「百聞は一見に如かず」ということわざの通り、実際に自分の目で見て、経験することで、教室や実験だけではわからない、新たな視点や気づきを与えてくれることでしょう。

北大理学部は5学科・6学科目で構成されていて、基礎科学分野の幅広い教育と研究を行っています。もしかすると、机上での計算や実験がメインで、教室や実験室の中が多いと思われるかもしれませんが、実はそんなことはありません。外での活動は学びや研究を進めるための大事なステップです。次のページから始まる特集では、北大理学部各学科のキャンパス外での活動を紹介します。

実験と研究の
日々に向けて
はじめの一步
スタートアップ研修



化学科2年生は1泊2日で工場見学と大滝セミナーハウスでの研修を毎年行っています。全員参加なので例年約80名、引率の先生とTA（大学院生のアシスタント）も合わせると100人ほどとなります。この研修は化学科の仲間としての連帯感を深め、これから始まる実習・実験の日々に向けての多くのエッセンスが詰まった最初の一步となります。

工場では高校で習った化学はこういうことだった！と気づきや理解があり、これから化学科で学ぶことがどのように実際の現場で活かされているのかを知ることができます。セミナーハウスではレクリエーションを通して先生やTAと学年を越えた関係を作ったり、これから研究をするためには何が必要か、そして研究にどのように繋げて

いくのかなど実践的な講義を受け、化学科の学部生としての意識を高めます。

また、この研修に参加するTAは初対面で2年生を束ねられるくらいのリーダーシップを持つ大学院生たちです。彼らも学部2年生の時に研修に参加しているので、その時の経験を活かして2年生を常にリードしていきます。化学科の先輩として彼らの疑問や質問に答えたりするなどのサポートをし、TAとして自らの経験値も高まります。

参加した全員が毎年行きたいと思うくらい楽しいと同時に、学びと経験と団結力が得られる化学科での大事な研修です。



海藻学実習は生物科学科（生物学）の3年生の希望者を対象に室蘭臨海実験所で3泊4日の日程でおこなわれます。

室蘭臨海実験所の先生たちは皆、第一線の研究者です。その先生たちから多くのヒントをもらいつつ、体全体を使って学習することで、自分たちの身近な環境について理解を深めていきます。

実習中の学生は、表情を見るととてもいきいきとしていて、海藻学実習を心から楽しんでいるのが伝わってきます。標本の観察とは違い、実際の生きた海藻を現場で見つけ出し、それらの見た目、手触りを実感し、多様な形態、生息分布、生態系などを広く観察します。つまり座学にはない、五感すべてを使ったフィールド活動の心地よさを体感できるのです。

この実習での経験により、生物分野、また、違う分野に進んだとしても、広い視野でものを見て考えることができるようになり、それは、今後の研究や社会活動にも生かされます。

北海道は豊かな自然に囲まれており、私たちの学科では特に充実した野外実習を行うことができます。これは、他の大学にはない、北大ならではの恵まれた環境です。今回紹介した実習の他にも、厚岸臨海実験所での臨海実習や苫小牧研究林での研究林実習、忍路臨海実験所、北大植物園を利用した実習など、いくつもの野外実習を行っています。

目で見て感じ、生物のありのままの姿を知るこれらの野外実習は生物学を修める私たちには欠かせないものです。これからも北海道の自然とともに充実した実習を行っていきたくて考えています。

体験すること
で
気づき、身につく
海藻学実習

研究を深め
自分が変わる
～海外留学～



自分の研究をさらに発展させるため、スウェーデンの Karolinska Institutet (KI) にて2か月間の研究留学を行いました。KI はノーベル生理学・医学賞の選考委員会があることで有名です。また、自分の研究に欠かせない蛍光顕微鏡の技術がここにはあり、多くのことを学びました。

留学中は研究室に行き実験、解析、議論、レポートと連日忙しく過ごしましたが、海外の学生は帰宅時間が早く、私もその日にやらなくてはならない事を終わらせ他の学生と同じように帰宅していました。そのため比較的日本より早く帰宅していましたが、中身の濃い一日を過ごすことができました。

海外の学生は思ったことをはっきり言い、コミュニケーションを積極的に行います。彼らに刺激を受け、自分も積極的に発言するよ

うに意識し、知らないことは恥ずかしがらないで聞くようにしました。帰国後の今、積極的に議論を行えるようになり、そこから新しい発想を得られたりと、日々の研究の様々な面で留学の経験が生きていると実感します。

語学留学とは違う、研究機関への留学は自分の研究の深化のために行きます。北大の研究室を飛び出して、新たな知見や技術を身につけ、臆せず発言し議論することなど、すべてが自分のプラスになりました。

いつか海外で研究したいと強い意志をもって日々の研究で努力を続けていると、先生たちもそれを認めてくれて、海外へ行くチャンスを与えてくれるでしょう。しかし受動的ではいけません。研究留学の機会を逃さず、今から自分の将来を見据えて行動することが重要になると思います。



地球惑星物質科学実習は2年生を対象としたオムニバス形式の実習で、毎回、担当する先生と実習内容が変わります。その実習地の一つに支笏湖と周辺地域があり、ここでは約4万6千年前の大噴火の痕跡を観察することができます。

現在の支笏湖はこの大噴火によって形成されたカルデラ湖です。この実習では支笏湖から遠く離れた千歳空港周辺から支笏湖畔まで、大噴火の堆積物を観察します。そして、噴出物から噴火の様子や推移を探るための技術をこの実習を通して身につけます。

学生は露頭（火山噴出物が露出する断面）をじっくり観察し、こまめにノートを取ったり、噴出物を手に取りルーペで観察したりと、実際に起こった巨大噴火の痕跡を一つ一つ確かめます。そうすることで、地球

の活動のダイナミックさに圧倒され、感動するようです。また、学生同士で議論をしたり、担当の先生にその場で質問したりと、現地で見学、技術を身につけようと自ら積極的に活動する姿勢は、これから始まる研究生生活への高いモチベーションとなるでしょう。

火山国と呼ばれる日本でも巨大噴火の痕跡をわかりやすく実感できる場所は国内でも数は多くありません。札幌から1時間弱でアクセスできる支笏湖と周辺地域は、地の利を生かした北大ならではのとても贅沢なフィールド活動の場です。この実習は地球という惑星を学生が身をもって知る貴重な学びの機会となっています。

地球の活動を詳細に知る
～地球惑星物質科学実習～

卒業までの
イメージを掴んで
スタートダッシュ！
～キックオフ合宿～



「数学科キックオフ合宿」は、主に後期入試で数学科に入学した1年生と、数学科に移行してきた2年生を対象に、1泊2日で行うイベントです。

まず、バスで国立大雪青少年交流の家まで移動し、アイスブレイキング。昼食をとった後は、教員から卒業研究のテーマを中心に数学教室の様々な情報提供があり、参加学生はそれに関するグループワークを行いました。また、夕食後は、交流会の中で卒業研究セミナーの模擬体験もでき、数学科での学修イメージを掴めたのではないかと思います。

2日目は、3班に分かれ、青い池へのハイキング、バレーボールや卓球、ミニレクチャー等を楽しみました。

合宿には、チューターとして先輩学生やポスドクも参加したので、横のつながり、縦のつながりが深まる、有意義な催しとなったようです。以下、参加者からの声です。

- 自分の専門を何にするか考える機会があって嬉しかった。
- 先生方による分野の説明や進路の説明等、非常にためになる話が聞けた。
- 同学年を始め、先輩や後輩との交流もでき、とても楽しかった。
- チューターが参加して1、2年生と話す機会があるのが良かった。
- ゼミやプレゼン発表の意欲が上がった。

物性物理学の最先端研究
～巨大加速器を用いて～



物理学の最先端分野では、研究を進める上で、大規模で特殊な研究施設（加速器や原子力施設、巨大望遠鏡、ロケットや人工衛星など）を利用することが不可欠です。北海道大学大学院理学院物性物理学専攻では、北大キャンパスを飛び出して、国内外の様々な共同利用機関で頻繁に実験を行っています。写真は、茨城県つくば市の高エネルギー加速器研究機構（KEK）にあるフォトンファクトリー（「光の工場」の意）という世界的な放射光施設です。

25億電子ボルトのエネルギーで加速された超高輝度の光を使って、物質の内部で原子がどのように並んでいるか、電子がどのように運動しているのかをマイクロな視点から調べることができます。物理学科4年生

の村田怜也さん（Jマテリアル強相関物性研究室に所属）も、大学院生の先輩達と共に実験に参加し、初めての加速器実験を経験しました。実験では、実際にコンピュータを使って装置を制御したり、試料の設置などを行いました。

村田さんは「まず実験装置の大きさにとっても驚きました。最先端の物理の発見がこの場所から生まれていると考えるとワクワクする一方、そのような研究の一員になり、一緒に研究ができることに感動しました。」と話しています。

秩序を保ちながら
弱い刺激で変化する結晶
「ソフトクリスタル」を求めて



私たちの研究室では主要テーマとして「ソフトクリスタル」の研究を行っています。クリスタル(Crystal)とは結晶のことです。なぜ「ソフト」という柔らかいという意味の言葉がそえられたのでしょうか。水晶やダイヤモンドからイメージできるように結晶とは硬くて安定な物質という印象がありますが、最近その常識をくつがえすような興味深い結晶が相次いで発見されているからです。

つまり、ソフトクリスタルは、原子や分子が規則正しく並んだ結晶であるにもかかわらず、擦ったり、蒸気にさらしたり、弱い刺激を与えることで、室温付近でも構造がガラッと変わるという特徴を持っています。さらに発光や色変化など、目に見える性質の変化がある物質をソフトクリスタルと定義しています。

物質には水やゲルのように流動性のあ

る柔らかい物質から金属のように硬いものまであり、秩序性と構造を変化させるエネルギーとの間に相関性があります。硬いものほど、構造を変化させるためには大きなエネルギーが必要となるのです。

このような物質に着眼したきっかけは、発光性白金錯体を作っていた時の発見に始まりました。錯体とは金属と有機物の複合体のことです。あるとき、偶然のことでしたが、その白金錯体をしばらく放置していたら赤く光り出しました。不思議に思いその原因を追及しているうちに、蒸気を当てることにより発光がオン・オフできることが分かりました。このように、不思議な現象に出会うとその理由を知りたくなります。きれいな結晶に感動しながら、真理を解き明かしていくことこそソフトクリスタル研究の醍醐味です。

研究の詳細情報：<https://www.softcrystal.org/>

地球惑星科学科の
先輩に聞く!

自分の関心に応じて
広く学んだ学部時代
研究者と社会を結ぶ
重要性を今に生かす



2016年3月
北海道大学理学部
地球惑星科学科卒業
2018年3月
北海道大学大学院理学院
自然史科学専攻 修士課程修了

国立研究開発法人
科学技術振興機構 (JST)
「科学と社会」推進部

日下 葵さん

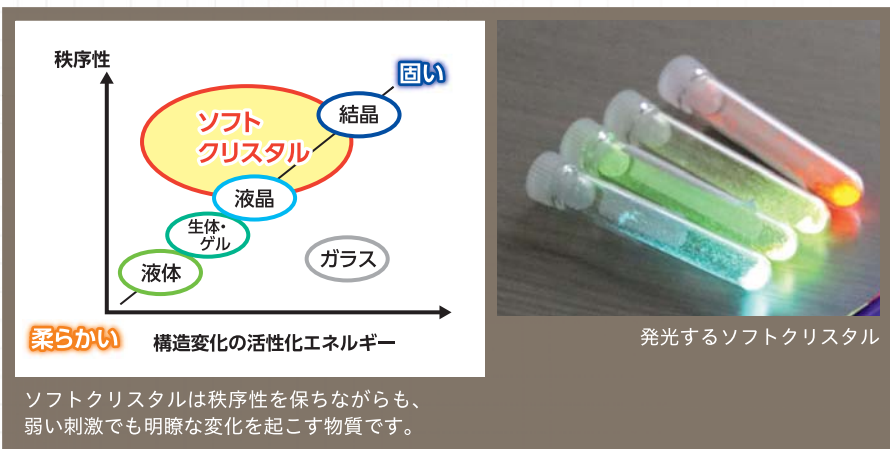
総合入試(理系)区分で入学し、2年次に地球惑星科学科に進学しました。そして昨年度、理学院自然史科学専攻の修士課程を修了しました。現在は、科学技術振興機構(JST)に勤めています。

理学部・理学院では、ジオテクトニクスグループでMarie Python先生のご指導の下、マントル岩石学の研究をしていました。長期のフィールドワーク、繊細な岩石薄片作り(得意でした)、苦難の鉱物化学組成分析(苦手でした)などを通して、過去のマントル中のマグマ活動を推定する研究です。未踏の地である地球内部ではどのようなことが起きているのか、考えるととてもワクワクします。美しいかんらん岩の鉱物からそれが分かると思うと、もっとワクワクします。胸の高鳴りが研究のモチベーションに大きく影響していたことは間違いありません。

地球惑星科学科は宇宙から地球の中まで、非常に幅広い学問を扱います。そしてカリキュラム上、自分の関心に応じて勉学に励むことができます。私は特に地球惑星システムに焦点を置いて講義を履修しつつ、隙間を見て教育学部や文学部の講義も他学部履修していました。学びを通して学問・研究成果が浸透していくプロセスに関心を持っていました。

大学院生になると同時に、北大内の科学技術コミュニケーション養成プログラム(CoSTEP)に参加しました。学部4年次に参加した博物館主催の卒論ポスター発表会で、自分の研究について言いたいことをうまく伝えられず、苦い思いをしたことがきっかけです。1年間のCoSTEPのカリキュラムと、大学院での研究を通して、大学での研究成果を社会に届けることと、社会の声を研究業界に結ぶことの重要性を強く感じました。その結果、現在の職を志しました。

私は他の理学部生と比べると、少し違う学び方をしていた気がします。深く理を学ぶ理学部に所属しているにも関わらず、横に広く手を伸ばしていることに対して、中途半端なことをしているかもしれない…と後ろめたく感じることもありました。ですが、この理学部・理学院で培った経験が、今の自分がぴったりだと感じることができる現在の職へ導いてくれたと思っています。就職してから2ヶ月余り、ようやく右と左が分かってきました。研究のプロセスと仕事のプロセスがよく似ていることも分かってきました。北大で学んだ経験を胸に、研究者と社会の両方に貢献したいと考えています。





新たな「知」とScienceの「理」を探そう!!
そうだったのか理学部誕生(前編)

北海道大学理学部同窓会 事務局長 **高橋 克郎さん**

北大理学部は1930(昭和5)年に設置され、今年で88年目を迎えます。人でいうと米寿のお祝いにあたります。米寿の節目に理学部の誕生の頃を振り返ってみましょう。

当時、北海道帝国大学として農学部、医学部、工学部がすでに設置されていて、理学部は4番目の学部として誕生しました。

北大理学部は国の政策によるものではなく、大学自らが強く望んで設置されました。農学・医学・工学という応用科学の中心となるべき基礎科学部門の早急な設置という、純粋な学問的欲求が原点です。初代総長 佐藤昌介を中心に学内協議を重ね、理学部設置を文部省(現在の文部科学省)に働きかけました。その結果、1926(大正15)年の帝国会議で承認され、東京、京都、東北に続く帝国大学として4番目の理学部設置が決まり、誕生したのです。

1927(昭和2年)4月に東北帝国大学理学部長 真島利行を長とする創立委員会が設置され、教員の選考を開始、同年8月には教員候補者が内定したことから、関係者による打ち合わせ会議が青森県



パリ会議

浅虫温泉で行われました。これはのちに「浅虫会議」と呼ばれるようになります。

また、教員候補者に内定している人は文部省在外研究員として欧米各地にそれぞれ2年間留学していましたが、1929(昭和4)年8月にパリに集合し、理学部の規定や予算を検討する会議を行いました。「パリ会議」と呼ばれるこの会議は「理学部第1回教授会」とも呼ばれています。

そして、1930(昭和5)年に開学しました。当時の教官は出身大学にこだわらずに優秀な人を集めていたからか、中谷宇吉郎、茅誠司など、後に有名になった人が多くいました。

北大理学部の誕生までの経緯がこれよくわかってもらえたでしょうか。後編(冬発行予定Sci第4号)では理学部の建物についてお話しします。

原理、原則のすすめ

内閣府公益認定等委員会事務局 非常勤
 (株)MCインターナショナル 代表取締役
村上 幸夫さん



1973年北海道大学理学部化学第二学科を卒業し、富士石油へ入社。在勤中米国コロンビア大学ビジネススクールへ留学しMBA取得。その後、ケムシステム、IBM、デュボン社で国内事業・コンサルティングに取り組む。2016年から現職。2013年より北海道大学新渡戸カレッジフェロー。

理学部を選んでよかったと思っている。

2年生の1969年秋に理学部に進んだ。無色透明な二つの液体を混合すると鮮やかな青や赤の液体に変わる手品に驚いた小学生の頃の体験が、化学を専攻した理由かもしれない。他の学部と違い理学部からは社会や産業に直結する具体的なものを想像できなかった。きっと純粋な科学をする所だろうと思ひ理学部を選んだと思う。

講義や実験で得られる知識とは別に、著名人の名が付いた自然科学の「原理、原則」を議論する日々があった。なぜその原理や原則が必要なのか。実験の観察結果と事実の違いは何かなど考えさせられた。その体験がその後のキャリアで大いに役に立った。実社会においても原理、原則が必要になるが、自然科学のそれとは別のものである。

石油会社に14年勤務したが途中で米国のビジネススクールに留学した。理系から文系への職業替えである。帰国後米系コンサルティング会社へ転職し、合計24年間支店代表やコンサルティング部門長として日々判断が求められる立場に

いた。どの分野でもリーダーとして判断に迷うときがある。そんなとき判断の拠り所になるのはその分野の原理、原則でありテクニックではなかった。60歳を超えて国家公務員になったがその考えは変わらない。現象の背後にある原理、原則を考える習慣は理学部だからこそ身に付いたのだと思っている。

変化は突然やって来る。どのキャリアパスを歩んでも、準備出来ていようが、出来ていまいがやって来る。原理、原則は、変化する複雑な社会に適応するための羅針盤だと思っている。



新渡戸カレッジフェローとして個別に対話をする村上さん



新渡戸カレッジ生へゼミを行い、リーダーとは何かを語りかける村上さん

学生の活躍

研究大学である北大での学びや研究はいつか結果となって実を結びます。それぞれの分野で結果を出した先輩たちをご紹介します。



日本化学会第98春季年会

口頭発表 学生講演賞

大学院総合化学院 物質化学コース 博士後期課程3年 阿南 静佳さん

タイトル: 結合形成に確率的な過程を含む新規固相重合法
高分子の新しい合成手法に関する研究を行っています。溶液中で自由に運動できる分子同士の重合と、固体中に固定された分子同士の重合は大きく異なります。本研究では、結晶中に固定された分子と非固定の分子を交互に反応させることで、高分子の合成を行いました。また、固定された分子の配列を変えることによって重合度が制御できることを、実験およびシミュレーションより見出しました。

※化学科の学生と一緒に研究しています。

第19回北東数学解析研究会

ポスター発表 優秀ポスター賞受賞

大学院理学院 数学専攻博士課程2年 福田 一貴さん

タイトル: Asymptotic profile for the generalized KdV-Burgers equation with slowly decaying data

本発表では、一般化されたKdV-Burgers方程式と呼ばれる偏微分方程式の数学解析を取り扱いました。これは、より一般の波のモデル方程式の一つで、浅水波やプラズマ中のイオン音波など、様々な物理現象の時間発展を記述しています。本研究では、十分時間が経過したときに、方程式の解（波の形状）がどのように変化するかを理論的に解析しました。特に、初期時刻における波の形状に着目し、その初期波形の違いが、波の形状変化に与える影響を数学的に明らかにしました。

※数学科の学生と一緒に研究しています。



Journal of Physical Society of Japan 日本物理学会英文論文誌

注目論文 (Papers of Editors' Choice)

高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所(中性子科学研究系) 博士研究員 (受賞時は 大学院理学院 物性物理学専攻 博士課程3年) 齋藤 開さん

タイトル: Evidence of a New Current-Induced Magnetoelectric Effect in a Toroidal Magnetic Ordered State of UNi₄B

蜂の巣構造上の電子スピニングが渦状に並んで秩序した「トロイダル秩序」について、網塚浩教授の下で研究し、金属化合物における新しい電気磁気効果を実験的に初めて観測することに成功しました。この研究成果は日本物理学会発行の英文誌(JPSJ)2018年3月号の注目論文に選ばれ、さらに科学新聞(平成30年4月6日)にも取り上げられました。



北大理学部をもっと知っていただくために

理学部紹介動画ができました!



タイトルは理学部HPに掲載の石森浩一郎理学部長のメッセージが由来です。「理を解き、知を創る」理学部を動画で体験してください。CoSTEP(科学技術コミュニケーション教育研究部門)により製作されました。

理学部の魅力がたっぷり詰まった、理学部の紹介動画「理(ことわり)を解き知を創る」が完成し、公開されました。

現役の理学部生がナビゲートし、各学科を紹介していきます。通常版と短縮版がありますが、ぜひ、じっくり通常版をご覧ください。

また、北大特別学生のonちゃんが理学部を訪問した時の動画もあります。こちらは「onちゃんキャンパスライフ」で検索してみてください。

理学部YouTubeチャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCPW5NrTR6ydi_SAVtp8CQg



理学部紹介動画

※QRコードからアクセスできないときは、理学部HPの紹介動画バナーからアクセスしてください。

広報誌



「Sci」バックナンバーも読めます!!

理学部ウェブページ左上にある「広報誌」のバナーをクリックすると、これまでに発行された「Sci」0号～2号を読むことができます。

特集や研究成果、学生の活躍など、北大理学部の情報が詰まっています。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/>



理学部Facebookページも要チェック!

理学部関連のイベント情報や正式告知中心の理学部ウェブサイトを補完する情報が掲載されています。理学部の日常こぼれ話?もたまに掲載です。

<https://www.facebook.com/School.of.Science.HU/>



北大理学部の1年 平成30(2018)年度

Sci



4月 6日(金) 北海道大学入学式
6日(金) 第1学期授業開始(理学部)

5月 ジンパ^(注1)の季節到来!! 🍷🍷

6月 1日(金)~3日(日) 大学祭

7月 期末テストシーズン

8月 5日(日)・6日(月) オープンキャンパス
7日(火) 1学期終了
8日(水)~夏季休業(~9月26日)

9月25日(火) ISP入学式
26日(水) 1年生向け
学部・学科等紹介イベント
27日(木) 2学期スタート
29日(土) ホームカミングデー

10月 そろそろジンパ^(注1)には寒い季節 🍷🍷

11月 初雪を見る季節 🌨️

12月27日(木)~冬期休業(~1月4日)

1月 7日(月) 授業再開

1月19日(土)・20日(日) 大学入試センター試験
期末テストシーズン

2月 4日(月) 第2学期終了

2月 6日(水) 1年生向け
学部・学科等紹介イベント
25日(月) 北海道大学一般入試(前期日程)

3月12日(火) 北海道大学一般入試(後期日程)
25日(月) 学位記授与式(卒業式)

※行事の日程は変更されることがあります
(注1) 北大名物ジンギスカンパーティー

社会で羽ばたく! 理学部の卒業生 キャリアカフェレポート

理学部出身で社会の様々な分野で活躍する卒業生をゲストに招いて、自分の将来を考えるきっかけとする「理学部キャリアカフェ」。2017年12月20日に第2回を開催しました。

今回は数学科と物理学科出身の先輩にお越しいただき、在学時から、現在に至るまでをお聞きしました。お二人とも問題解決能力や、論理的思考力は理学部在学中に身につけ、それが仕事に活かされていると言います。お話を聞いた後は質疑応答となり、参加した学生からの様々な質問に真剣にそして、時には笑いを交えて回答されていました。

理学部キャリアカフェはこれからも開催される予定です。



物理学科出身: 池田祐介さん(右)
と数学科出身: 本間充さん(左)

“CAREER cafe Report”

表紙: 北大構内「恵迪(けいてき)の森」での基礎生物学実習(植物観察・昆虫採集)に参加した、生物科学科(生物学)2年生の皆さん

北海道大学理学部

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
URL <http://www.sci.hokudai.ac.jp/>

発行 理学部広報委員会
発行日 平成30年(2018年)7月31日
TEL 011-706-4818(広報企画推進室)
E-mail rigaku-koho-office@sci.hokudai.ac.jp